はしがき

本報告書は、平成18年度東京都中小企業連携組織対策補助金事業の一環として、実施した「組合青年部実態調査」の結果をまとめたものです。

大企業を中心に景気の回復が見られますが、多くの中小企業は、相変わらず、厳しい状況におかれています。そこで、中小企業を支援する中小企業組合もまた新たな役割が求められています。

この中小企業組合の役割発揮、活性化については、組合の「青年部活動」がカギを握っています。中小企業も組合も後継者育成は、いつの時代も喫緊の課題でありますので、会員の状況や活動状況あるいは親組合との関係・位置づけ、さらには親組合活性化のための取り組み状況などについて調べてみました。

この報告書が、今後の青年部及び組合の活性化にいささかでもお役立ていただければ幸いです。

本調査の実施にあたりまして、ご協力頂きました組合並びに青年部の方々に深く感謝申しあげます。

平成19年2月

東京都中小企業団体中央会

Ⅰ　調 査 の 要 領

1．調査の目的

本調査は、中小企業組合青年部の組織、活動状況や問題点等について現況を調査し、今後の青年部運営の円滑化、活性化に資することを目的とする。

2．調査の対象

平成17年度に本会で実施した「事業協同組合実態調査」において青年部を有すると回答した事業協同組合に加え、青年部を有する商工組合を対象とした。

3．調査の種類

郵送によるアンケート調査

4．調査の方法

調査対象組合の自記入。調査票は東京都中小企業団体中央会が郵送により配布・回収し、集計した。

5．調査時点

平成18年10月1日現在

6．回収状況

①	調査対象組合数	208組合
②	回収組合数	117組合
③	回収率	56.3％

7．調査事項

① 青年部の概要
② 青年部設置の動機
③ 親組合と青年部の関係
④ 青年部活動に対しての支援
⑤ 青年部の活動状況
⑥ 青年部の財政規模
⑦ 他組合青年部との交流　等

Ⅱ　調 査 結 果 の 概 要

1. 青年部の概要について

(1)　設立年

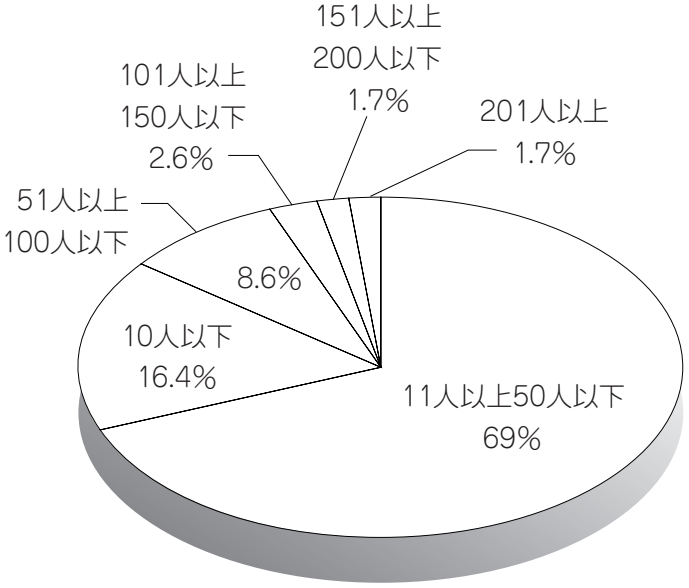
「昭和50年代」、「平成元年～平成10年」がともに26組合（23.6％）と第一順位にあり、次いで「平成11年以降」が16組合（14.5％）で第三順位となっている。

回答総数＝110

(2)　会員数

第一順位「11人以上50人以下」が80組合（69％）、第二順位「10人以下」19組合（16.4％）であり、50人以下の会員数で85.4％を占めている。

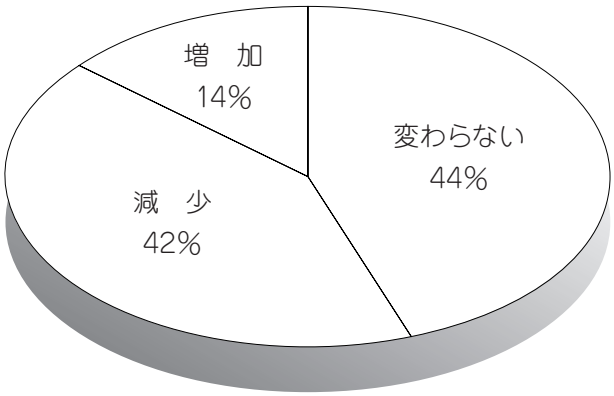
また、平均会員数の前回・前々回調査比較では、平成5年調査62.3人、平成10年調査が47.3人、今回（平成18年）調査が37.2人であった。大幅な減少となっている。



平均会員数＝37.2
回答総数＝116

(3)　最近（3年間）の会員の増減

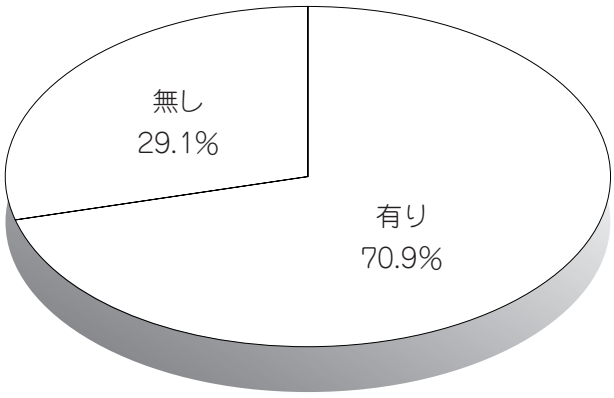
「変わらない」（52組合）と「減少」（49組合）がほぼ同数となり、「増加」（16組合）は1割強にとどまった。



回答総数＝117

(4)　**会則又は規約の有無**

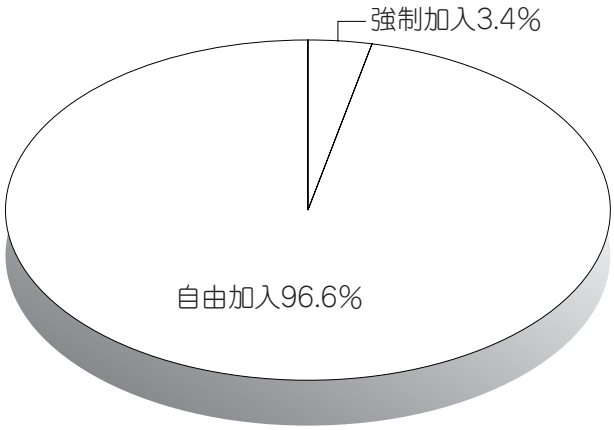
会則又は規約「有り」とする組合83（70.9％）、「無し」とする組合34（29.1％）であった。



回答総数＝117

(5)　**会員資格のある者の加入は**

「自由加入」と答えた組合が113組合（96.6％）とほとんどであるが、強制加入も3.4％あった。



回答総数＝117

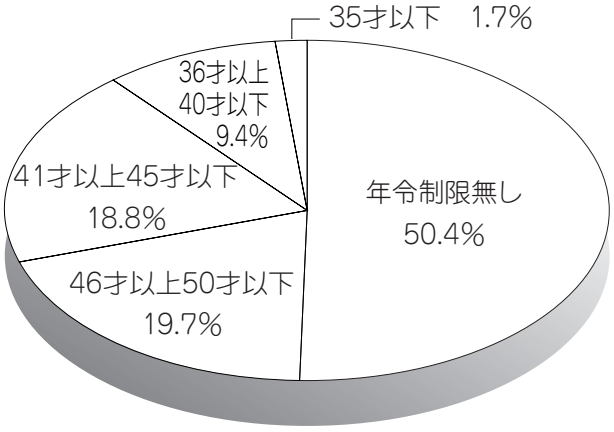
⑹　年令制限

年令制限「有り」が58組合（49.6％）、「無し」が59組合（50.4％）で、ほぼ同数となっている。

また、「有り」の内訳は、「46才以上50才以下」が第一順位で23組合（19.7％）、第二順位「41才以上45才以下」22組合（18.8％）となっている。

前々回（平成5年）及び前回（平成10年）調査との比較をみると、「無し」の比率が40.3％、46.9％、50.4％となっており、年令制限を無くす青年部の割合が増えている。会員数が減っていることへの対応か。

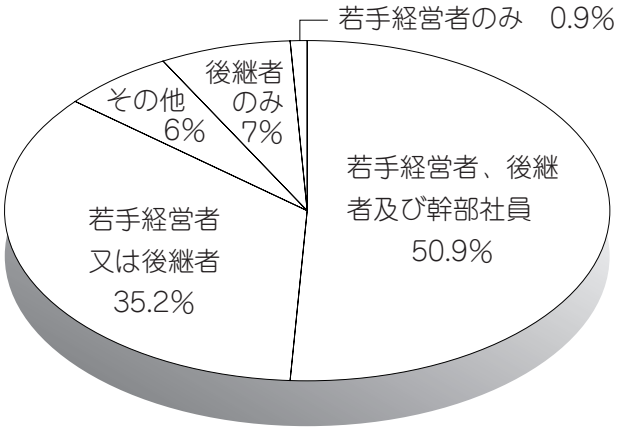
平均年令は、平成5年45.9才、平成10年46.3才、平成18年46.8才と横ばいである。



平均年令＝46.8才
回答総数＝117

⑺　会員の構成

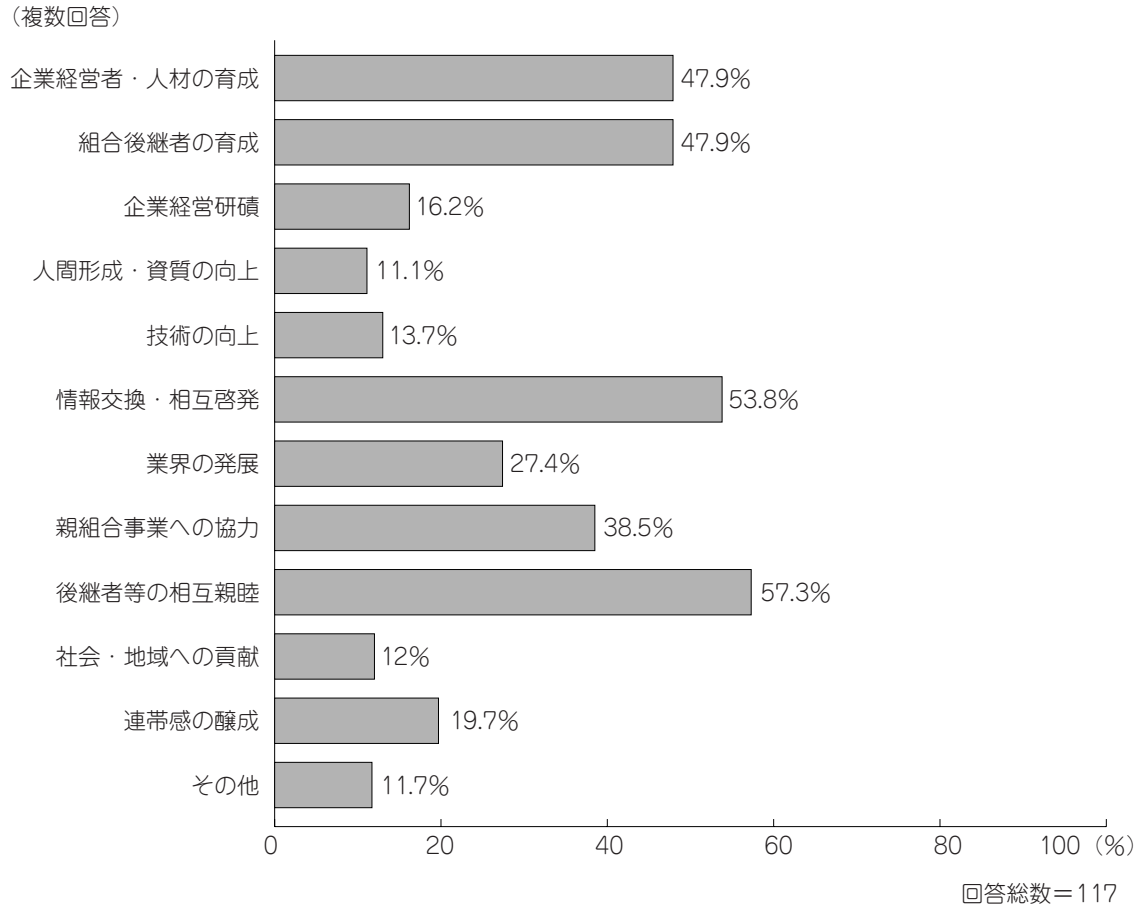
会員の構成は、「若手経営者、後継者及び幹部社員」とするものが第一順位で55組合（50.9％）、次いで「若手経営者又は後継者」で38組合（35.2％）あり、全体の86.1％を占めている。



回答総数＝108

2. 青年部を設置した動機について

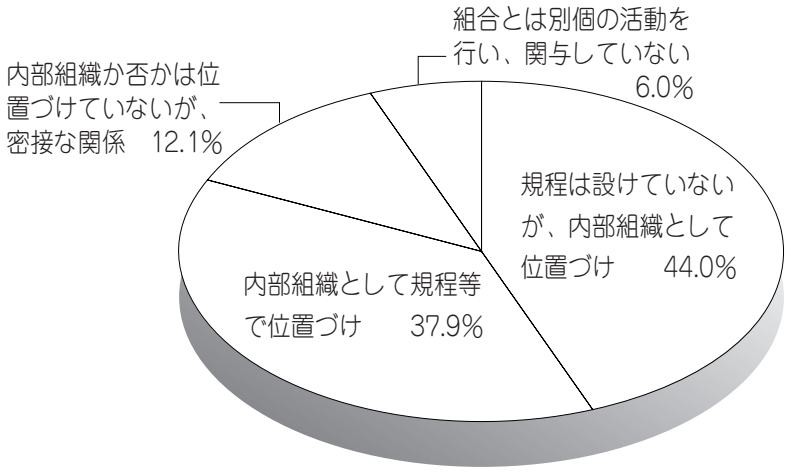
上位３位をみると「後継者等の相互親睦」67組合（57.3％）「情報交換・相互啓発」63組合（53.8％）「企業経営者・人材の育成」、「組合後継者の育成」56組合（47.9％）の順位であった。前回（平成10年）調査と上位３位は同じ項目となった。



3. 親組合と青年部の関係について

(1) 青年部の位置づけ

親組合からみて、青年部をどの様な位置づけとしているかをみた。第一順位が「規程は設けていないが、内部組織として位置づけ」51組合（44.0％）、次いで「内部組織として規程等で位置づけ」ているが44組合（37.9％）であった。従って、規程等で定めている、いないにかかわらず、「内部組織として、位置づけている」組合が80％を超えている。



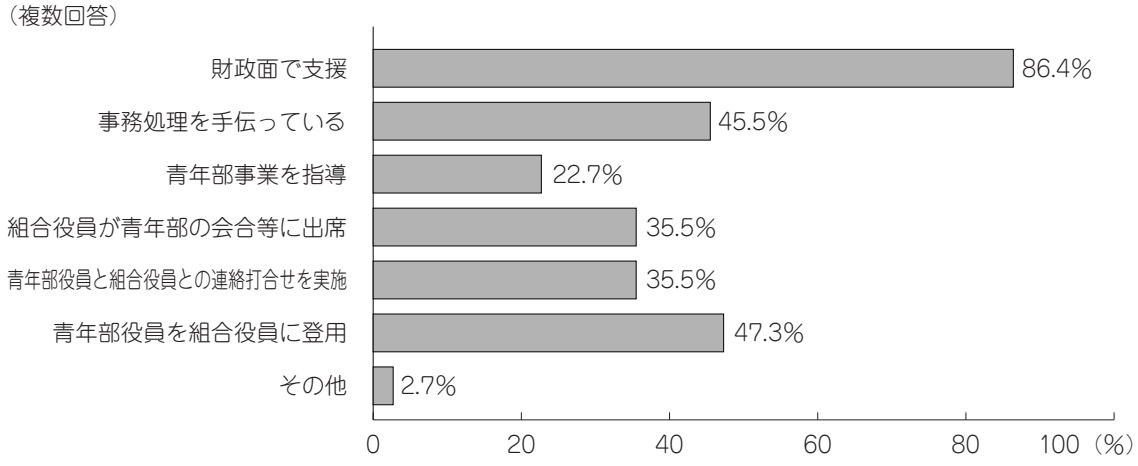
回答総数＝116

(2) 青年部活動に対する支援策

親組合の青年部活動に対する支援の内容をみると、第一順位は、「財政面で支援」が95組合（86.4％）であった。

第二順位は、「青年部役員を組合役員に登用」しているが52組合（47.3％）、次いで「事務処理を手伝っている」50組合（45.5％）となっている。

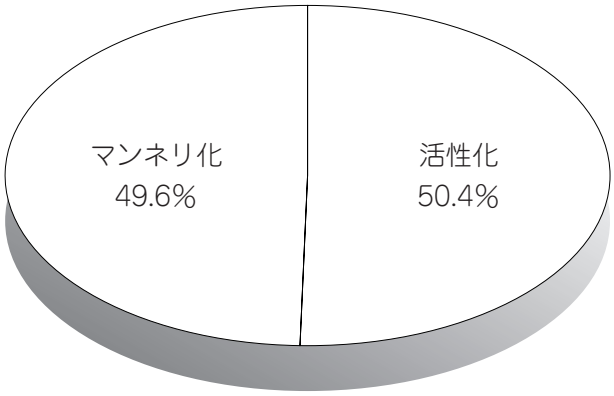
「青年部役員を組合役員に登用している」割合を前々回・前回調査と比較すると、平成5年が42.9％、平成10年は51.7％、今回は47.3％であった。



回答総数＝110

4. 青年部の現在の活動状況について

「活性化している」青年部と「マンネリ化している」青年部がほぼ同数となった。

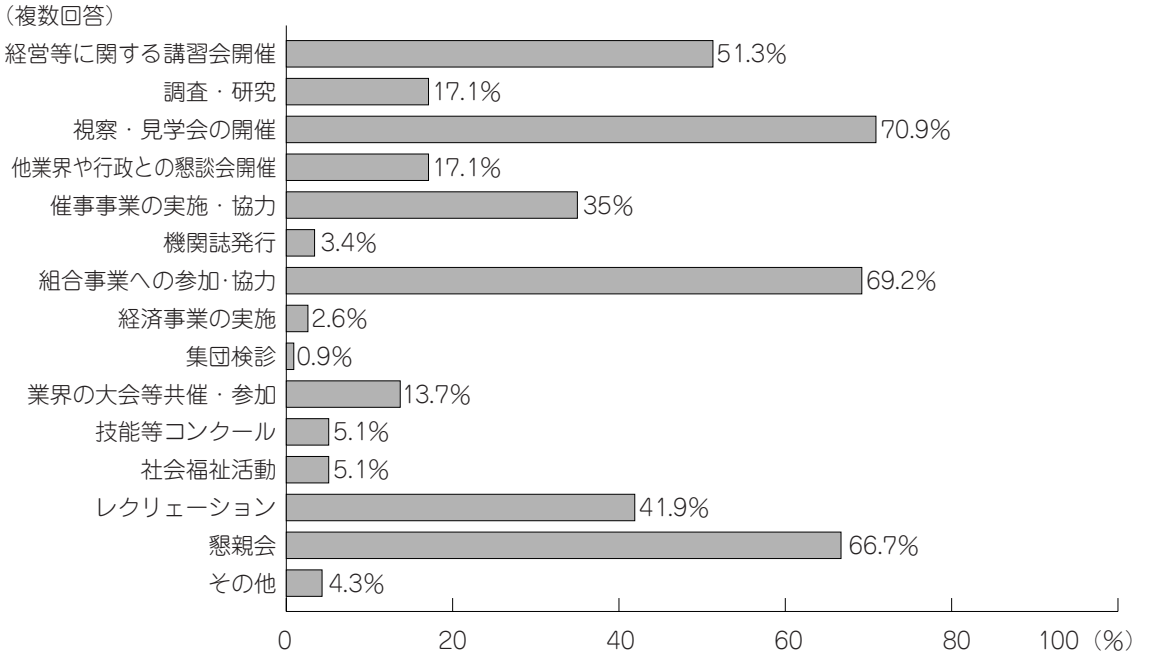


回答総数＝117

※「活性化している」「マンネリ化している」理由については 13 頁に掲載。

5. 青年部の実施事業について

上位３位は、第一順位が「視察・見学会の開催」83 組合（70.9％）、次いで「組合事業への参加・協力」81 組合（69.2％）、「懇親会」78 組合（66.7％）の順であった。上位３位は、ほぼ、どの組合でも、青年部の共通した事業であって、前回・前々回調査と変化がなかった。

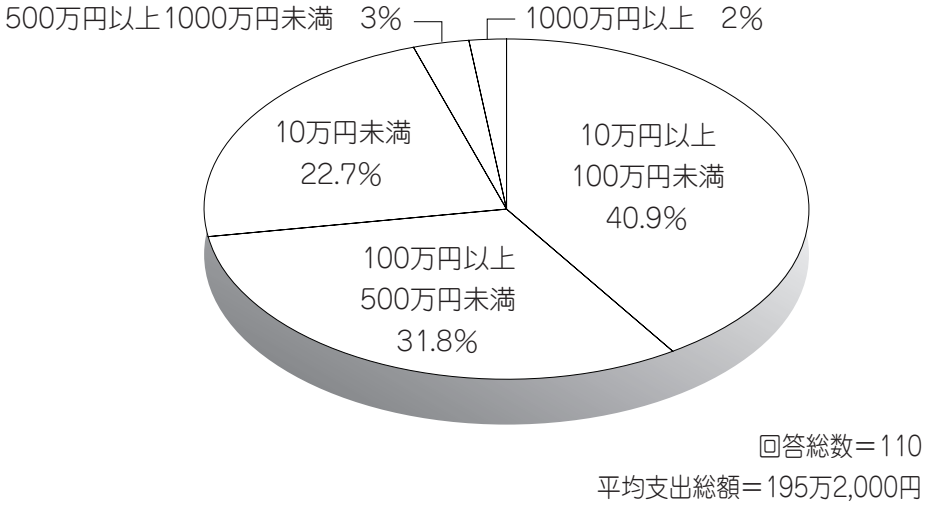


回答総数＝117

6. 青年部の財政規模等について

(1) 前年度の支出総額

青年部における年間の支出総額をみると、第一順位が「10万円以上100万円未満」45組合（40.9％）、次いで第二順位「100万円以上500万円未満」35組合（31.8％）、第三順位「10万円未満」25組合（22.7％）であった。また、平均支出総額は、1,952千円で、前回（平成10年）調査1,416千円、前々回（平成5年）調査1,706千円と比べて増加している。

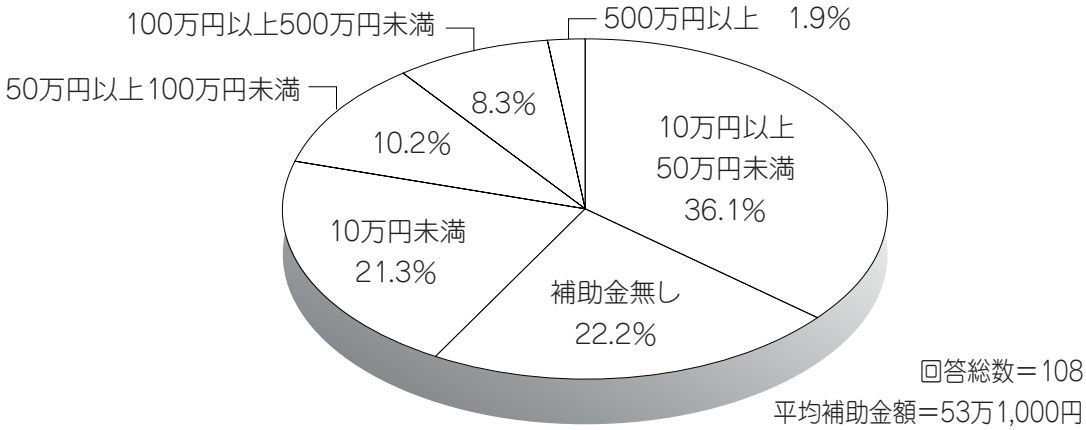


(2) 前年度の親組合等からの補助金額

親組合等からの補助金が「有り」とする青年部が84組合（77.8％）、「無し」とする青年部24組合（22.2％）となっている。

「有り」とする組合の補助金額をみると、「10万円以上50万円未満」が第一順位で39組合（36.1％）、次いで「10万円未満」23組合（21.3％）、「50万円以上100万円未満」が11組合（10.2％）の順位であった。

「補助金等」の平均補助金額は、平成5年調査が540千円、平成10年調査は476千円であり、今回の調査は531千円であった。



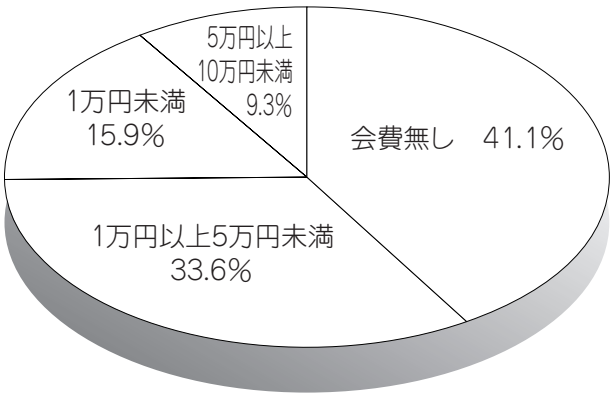
(3) 1会員の年会費額

まず、会費徴収の有無については「有り」が63組合（58.9％）、「無し」が44組合（41.1％）の割合であった。

徴収する組合の金額について上位３位は「１万円以上５万円未満」が36組合（33.6％）、次いで「１万円未満」が17組合（15.9％）、「５万円以上10万円未満」10組合（9.3％）の順位であった。

前回・前々回調査比較の会費「無し」組合の割合は、平成５年調査で14.5％、平成10年調査で21.5％であったのに比べ大きく増加している。

「１会員当りの平均年会費額」は、平成５年調査26,244円、平成10年調査19,261円、今回調査は、35,523円と増加した。

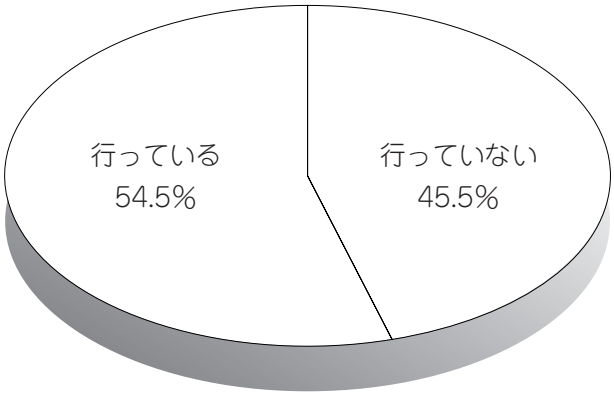


回答総数＝107
平均年会費額＝3万5,523円

7. 他組合青年部との交流について

(1) 他組合青年部との交流の有無

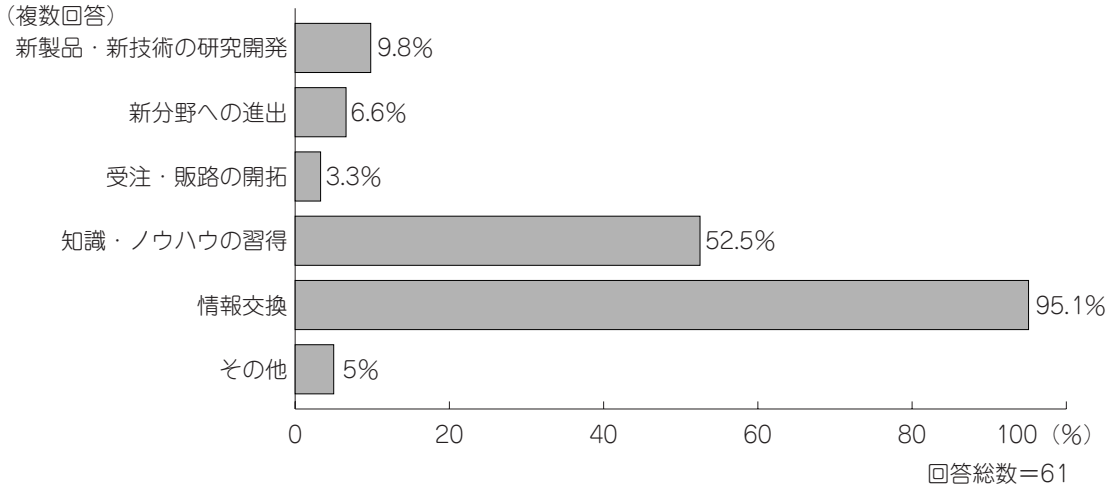
他組合青年部との交流を「行っている」組合61（54.5％）、「行っていない」組合51（45.5％）であった。前回・前々回調査では、他組合青年部との交流を「行っている」組合は平成５年調査41.4％、平成10年調査43.5％となっており、今回の調査では大きく増加した。



回答総数＝112

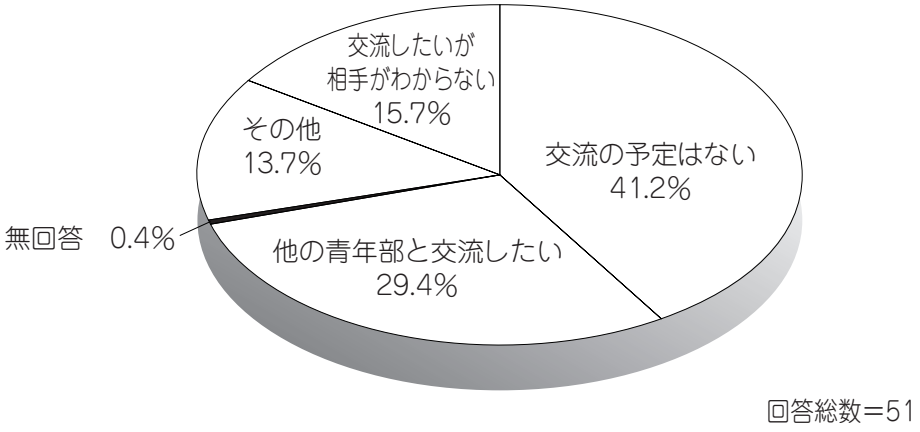
(2) 交流の目的

他組合青年部と交流を「行っている」61組合の内訳は、「情報交換」58組合（95.1％）、「知識・ノウハウの習得」32組合（52.5％）の順位で多かった。この順位は、前回（平成10年）調査と同様だが、「知識・ノウハウの習得」を行っている青年部が増加している。



(3) 他組合青年部との交流希望

他組合青年部と交流を「行っていない」51組合の今後をみると、第一順位が「交流の予定はない」21組合（41.2％）、第二順位「他の青年部と交流したい」15組合（29.4％）であった。約3割の青年部が交流を希望している。



8．～自由記述より～

(1) 親組合と青年部で問題となっている点

（会員・構成員に関するもの）

・新規加入者がなく、会員が減少しており、運営が難しくなっている。…… 4 件
・高齢化や世代交代が進んでいる。さらに、後継者がいない。
・世代交代が進み、会員の半数が親組合の役員になっているし、組合員減少に伴い親組合、青年部と分けて活動することが必要なのかとの意見もある。…… 2 件
・会員が、だんだん高齢化してきて親組合と両方に加入している人が多くなり、親組合と青年部との違いがあまりなくなってきた。
・親組合に父、青年部に子という関係上、なかなか親組合と共同歩調が合わない。
・青年部役員に組合事業をバトンタッチしたくとも、現業に追われている。
…… 2 件
・会員は会社のリーダー的後継者となり、会合が開催しにくい。…… 2 件

（親組合との相性）

・年代による意見の相違が生じている。…… 2 件
・青年部員の拡大に親組合の理解・支援が必要。
・かつては、部会長が組合理事職に就いていたが、部会の独自性をねらって離別。以来、組合事業としての統合性・整合性に欠けている。
・青年部活動がいき詰まっているので、親組合が組織運営のアドバイスをすべきか、検討している。
・青年会トップのリーダーシップが弱いため、組織が弱体化している。青年会を青年部に組織変更して、親組合と青年部が同じ意識を持ち、同じ事業を展開できるようにし、組合の活性化に結びつけたい。
・コミュニケーション不足

（新規事業等の模索）

・戦略的に考えると魅力のある青年部活動の方向性について、有限原資の中で苦戦している。
・今後、会員ニーズに合ったテーマをどう設定するかが問題になってきている。
・青年部員が家業の主流になっていたり、また、事業所の従業員だったりで、[部]として思うような活動が出来ない。（青年部として独立した活動が困難な状況）

（その他）

・業務時間が早朝より深夜に及ぶため、会合のスケジュールや休業日の相違により研修事業の開催などに困難をきたしている。
・全体的に躍動感がない。熱気ある議論にならない。
・事業の実施が遅い。
・事業費用の負担金・資金を援助してほしい。

・行事への参加人数が少ない。
・会合の時間帯が遅い。

(2) 青年部の現在の活動状況について
～「活性化」・「マンネリ化」の理由～

・「活性化」の理由
（人的要因などによるもの）
・リーダーシップが強い。……4件
・活動力のある人のみで構成している。
・企業経営の研鑽に熱心な若手経営者が集まっている。……2件
・伝統的に相互親睦を図り連帯感の醸成に努めている。……2件
・各自、幹部の意識が高く、真剣に問題意識、向上心を持っている。……3件
・意識改革を積極的に取り入れている。（意見の吸い上げ）
・部員の若返り、加入、世代交代が進んでいる……4件
・新入部員の加入などにより、技術研修や異業種交流を多く開催している。
・活発な意見交換を行い、本音で会合を進めている。……2件
・担当委員の積極性、指導力、企画力あり。……2件
・経営者としての勉強は勿論のこと、部会員相互の人間的な繋がりが大きな実績であって、それから派生する仕事の融通とが、お互いの悩みの解消などに、非常に功果を上げている。
・人材が揃ってきている。若い人材の比率が増加している。一方で、当事者意識の低下が今後のマイナス要素となる可能性有り。会員間の格差が心配。…2件

（事業面から）
・17年に新しい事業を企画、立案、実行して組合員・一般ユーザーに認められ、今年さらに強化している。
・毎月第三水曜日に“塾”を開催し、生産者・消費者から評価を得ている。
・青年部独自事業（カレンダーの創作等）で頑張っている。
・生産者との交流を図る等、商品開発に対して意欲的になっている。
・常に時代に即したテーマで定例講習会を開催し、情報を共有化。新しい発想を模索している。……2件
・異業種との交流会を開催、交流の場として活性化している。

（関係者の協力）
・親組合の理解がある。……3件
・青年部定例会を通して、青年部相互と親組合との親睦を深めている。……2件
・会員が活動に積極的に参加している。会員が同一地域にあり、連絡が取りやすい。
・中央会からの補助などを踏まえ、様々な事業を行っている。
（その他）
・出来るだけ集まる機会を設けている。

・青年部会員の要求を取り上げ、相互の意思疎通を日常的に図っている。
・遊びと勉強の両立が出来ている。役員だけでなく、運営に一般会員を参加させている。

・「マンネリ化」の理由
（現状を訴えているもの）
・後継者の減少により新規部員の加入がなく、会員の減少に歯止めがかからない。……8件
・リーダー不足、人員・会員不足によって企画力不足や資金力不足を併発している。……15件
・青年部役員への就任を回避する傾向がある。
・長年、同じ会員同士なためマンネリ化している。
・会員は第一線で活動しており、家業の人手不足や多忙のため会員間の連絡や日程調整（参加機会）に手間取っている。……4件
・出席者・参加するメンバーが毎回同じで会合に活気が感じられない。
・業況が厳しいので事業などへの参加者が減少し、青年部活動が停滞している。
・公共事業への世間からの風当たりが強く、目立った活動を自粛せざるを得ない状況にある。
・組織化されて時間が短いため、定例会開催などが決まっておらず、勉強会、新年会などのときにしか集まることができない。

（マンネリ化の打開策）
・同業種の他組合と情報交換を行い活性化しようとしている。
・新規加入者の増大に努力中。
・青年部４役と一部の方は、懸命に考え、行動し、頑張っているが全体の活性化は難しい。18年11月に大阪青年部と一緒に工夫していく。
・今までの主な活動が懇親会でしたので､その習慣を変えていきたいと思います。
・他の組合からの呼びかけに応じ、講習会などに参加している。

(3) 中央会や行政等へのご要望・ご意見

・次の役員、組合員の後継者として組合としても力を傾注していくが、懇親会的要素でなく、独自で考え活性化している青年部のサクセスストーリーの公開をお願いしたい。
・他組合青年部での活動状況、成功例、研修テーマなど運営に参考となる情報を提供してほしい。
・部活動が停滞している。部員が増えない。活動に参加しない。以上について、ご指導を願いたい。
・中央会青年部協議会では中身のある活動内容が多く、当青年部も参加しております。今後もよろしくお願いします。